

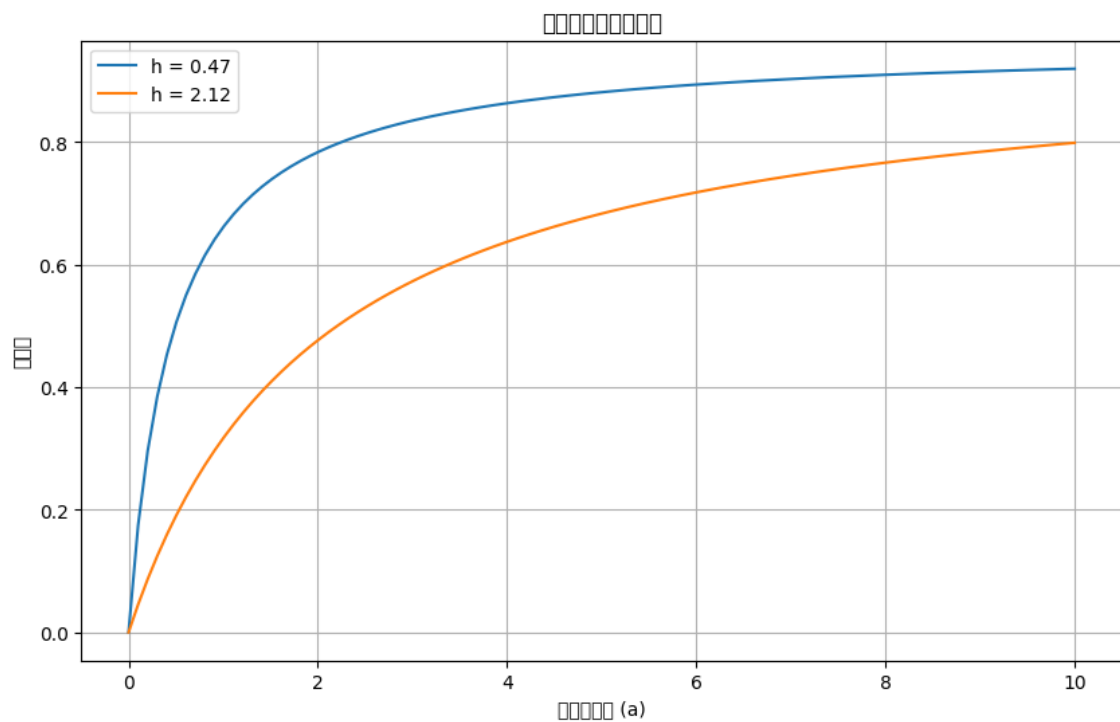
定量マクロ経済学 後半 最終課題 回答

22103014

岩本啓志

1. 貯蓄率は現在の資産の増加関数か減少関数か。その直感的な（経済学的な）理由も述べよ。

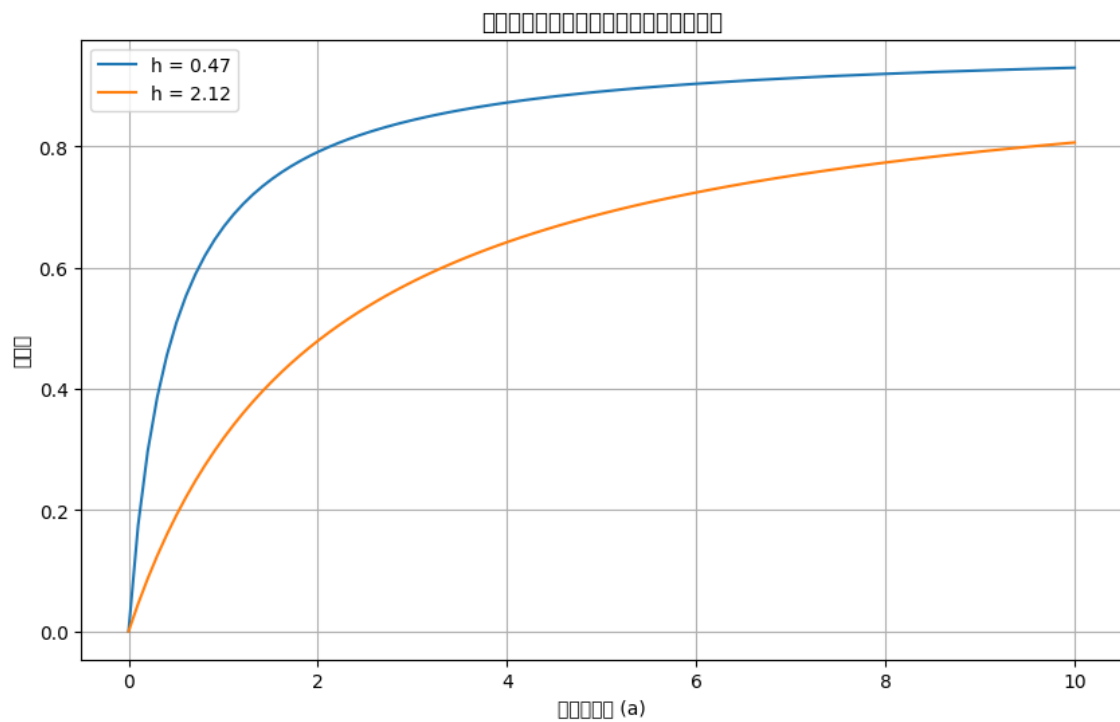
貯蓄率は資産の増加関数である。資産が多いほど、将来の消費を確保するために貯蓄余力が増えるためではないかと考える。



(最終課題 問1 グラフ1 貯蓄関数)

2. 資本所得税を導入した時、貯蓄率は導入前と比べてどうなるか。1 と同じようなグラフを描き、1 の グラフと比較せよ。その直感的な理由も述べよ。

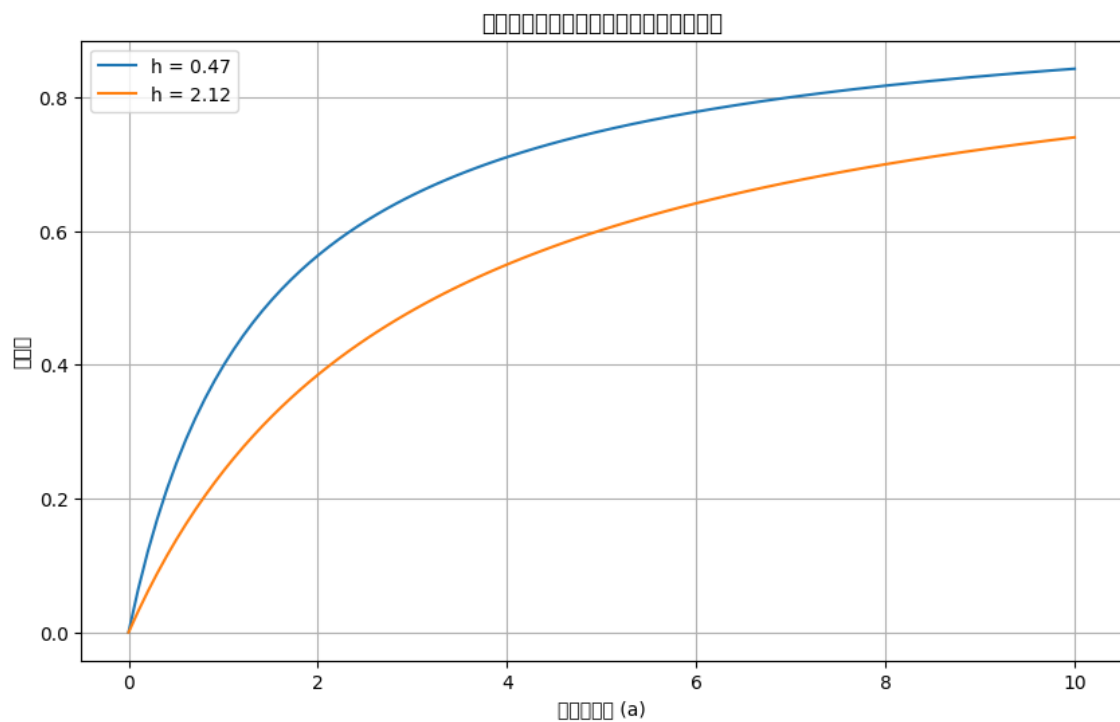
資本所得税の導入により、資本から得られる所得が減少するため、家計は資産を増やしても得られるリターンが少なくなると言える。よって、現在の価値が将来の価値よりも少し高まるのではないかと考えられる。実際に 1 のグラフと比較すると、わずかに資産が少ないところの貯蓄関数の傾きが急になっていることが確認できるため、資産所得税によって、貯蓄によって将来的に得られるリターンが減った結果、家計は現在の価値を将来の価値よりも好むようになるのではないかと考える。



(最終課題 問2 グラフ1 資産所得税を導入した後の貯蓄関数)

3. 貯蓄率は導入前と比べてどうなるか。1と同じようなグラフを描き、1のグラフと比較せよ。その直感的な理由も述べよ。

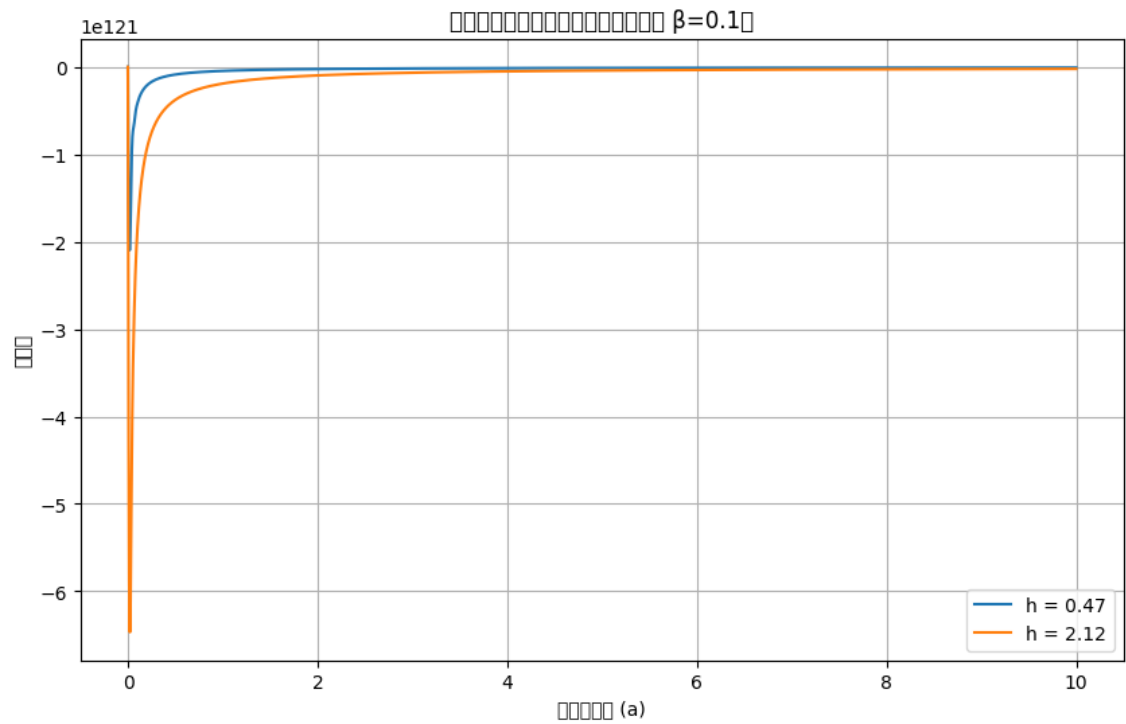
一括補助金の導入により、家計の可処分所得が増加する。したがって、家計は消費と貯蓄の両方に充てる資金が増える。追加の所得が将来の消費を確保するための貯蓄に回されるため、貯蓄率は、一括補助金が導入される前よりも高くなると考える。実際にグラフを見ると、貯蓄率は1と比較して高くなっていると言える。



(最終課題 問3 グラフ1 一括補助金を導入した後の貯蓄関数)

4. 1と同じようなグラフを描き、1のグラフと比較せよ。その直感的な理由も述べよ。

1のグラフと比較すると、そもそも縦軸の単位が $1e121$ であり、現在に貯蓄する割合が極端に低くなっている。理由としては、時間選好率が低くなるということは、家計は、より現在の資産や消費に高い効用を得るからだと言える。



(最終課題 問4 グラフ1 時間選好率が低下する前後の貯蓄関数)